

日本川崎病研究センターニュースレター

(No. 48) 2024.8.1

発行：特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター

ご挨拶

今田義夫

会員をはじめ多くの方々には、日頃から特定非営利活動法人 日本川崎病研究センターの運営に深いご理解とご支援いただき心からお礼を申し上げます。

現在、期待に反してコロナ感染は勢いを失わず、最近では KP.3 株の出現もあり第 11 波の流行に入ったとも言われています。更には、保育所や幼稚園、小学校などでも流行がみられています。又、手足口病の流行も例年の比ではなさそうです。このような感染症の状況の中で川崎病の動向がとても気になります。また、稀に見る酷暑の中で体調を崩される方々の増加も気になるところです。

さて、当センターの総会は 6 月 8 日に Zoom 会議と神田エッサムを会場としてハイブリッド開催され、昨年度の事業報告・会計報告・監査報告、又、本年度の事業報告や予算などについても報告し、承認を頂きました。更には、人事面での変更はなく今後 2 年間は現状のメンバーで運用して参ります。宜しくお願い致します。本年度の事業計画はほぼ例年と変わらない提案となりました。具体的には、柳川副理事長と中村理事により実施され 27 回を数えた全国調査は一旦終了し、新たに「川崎病の疫学研究 2024」として、日本川崎病学会が疫学研究実施施設を公募で選定し、当センターと協同で新しく疫学調査を継続していくこととなりま

した。また、研究実施機関として自治医大公衆衛生学部門が担当することとなりました。「川崎病勉強会 2024」は 2025 年 3 月に実施予定となっています。

学会開催は「第 14 回国際川崎病シンポジウム」が本年 8 月 26 日～29 日にカナダ、モントリオールで Najib Dahdah,MD、Adriana Tremoulet,MD 両会頭のもとで実施の予定であり、これまで通りの学会運営支援を実施いたします。更に柳川副理事長により昨年 11 月に当センターから出版された「第 1 回～第 27 回川崎病全国疫学調査総括」の英語版が柳川副理事長のご尽力で本年 3 月に同じく当センターから出版されました。この本はこの国際シンポジウム参加の多くの外国人研究者に提供される予定で、他の疾患には例のない素晴らしい疫学調査成績は川崎病研究の更なる国際化に大きく貢献すると思われます。また、同地で同時に開かれるアジアパシフィック川崎病連合に対しても開催支援を行います。

更に、第 44 回日本川崎病学会が 10 月 4 日～5 日に日本医科大学の深澤隆治会長のもと一橋講堂で開催予定で、同じく開催支援を予定しています。

最後におめでたいお話を一つ。当センター開設当時のメンバーで、現副理事長の柳川 洋先生の「柳川洋先生の米寿をお祝いする会」が 5 月 25 日 明治屋ホールで開催され全国から多くの方々が出席されました。この会で柳川先生から「川崎病と

の出会い」と題してのお話を頂きました。川崎先生との思い出も多くの写真と共に懐かしく拝聴いたしました。有り難うございました。

(日本川崎病研究センター理事長)

Japan, Kawasaki Disease Research Center

Japan, Kawasaki Disease Research Center

「川崎病との出会い」に感無量

田辺 功

東京・京橋で5月24日に開かれた「柳川先生の米寿を祝う会」では多くの先生方と何年ぶりかにお会いできました。九州を始め全国各地から集まった先生方で賑わった独特の雰囲気の中で、胃を全摘して以来、あまり飲めなかったビールを普段の3倍くらい飲みました。柳川洋先生の講演「川崎病との出会い」のスライドでは、川崎富作先生、重松逸造先生らの元気なお姿が懐かしく感じられました。

川崎先生が新しい病気、と気づいたのは1961年で、重松先生の協力で厚生省研究班が1970年に発足しました。重松先生は全国調査、疫学調査を引き受け、その実務を担当したのが柳川先生です。患者が出ていない地域もあります。どんな病気かを分かりやすく表した「診断の手引き」を作りました。新しい薬や検査なども加わり、調査項目はどんどん増えていきます。研究班はその結果を公表し、治療の改善にも貢献しました。大きな負担にもかかわらず協力、回答した小児科医も偉い、と敬服します。

国立公衆衛生院から自治医大教授に就任の柳川先生、そして後任教授の中村好一先生と続いた調査は2022年に終了しました。何と50年超です。世界でも例を見ない長期

間の完璧な調査が、どんな病気でも大規模調査がまれとされる日本でできたことは驚きです。集計作業の屋代真弓さんらの努力にも敬服です。

調査の大きな目的の1つは原因究明です。川崎病は1979、1981、1982年と大流行しました。感染源がじわじわと隣接地域への広がるような様子も見られました。患者は年々増えてはいましたが、1982年は予想の3、4倍にもなりました。大流行となれば、疫学調査で原因が分かるはずと私は思っていたのですが、残念ながらそうはなりませんでした。

同年7月、重松委員長のもと、日本の代表的研究者が参加する日本心臓財団の川崎病原因究明委員会が発足しました。国民に募金を募り、医学界あげて取り組む試みです。私は各原因説の総合的な分析を期待していたのですが、研究者は自分の分野を調べる感じで成果は上がりませんでした。

私は溶連菌が原因の可能性が高いと感じています。溶連菌が起こすしょうこう熱と症状は似ていますが、川崎病には菌がない、菌の抗体もないなど決定的な相違点がありました。しかし、特殊な抗体の報告があります。当初新しい病気と認めてくれなかった研究者が溶連菌説であることに川崎先生は強く反発していました。その意向を重視し、研究者たちも別の菌やウイルス、他の原因を求めてきたような気がします。

少子化なのに患者は増え続けています。原因が重要なのは医師や研究者のためでなく患者のためなのです。若い先生方が若い目で病気を見て、私たち世代が見落とした原因に気づいて欲しい、と願っています。

(医療ジャーナリスト)



川崎病 解明へ国民募金運動

一口千円呼びかけ

心臓財団「国の研究費足りぬ」

日本で見つかり、日本の乳幼児を苦しめている川崎病の原因を日本の手で解明しよう―と、財団長入・日本心臓財団（財団理事長）は十二日、研究費として二千円を出資するとともに、近く一般国民を対象にした研究費の募集運動を開始。川崎病の原因の国民運動を開始することを決めた。正しい国の研究費では十分な研究が行われていない。この認識から、募金は財団財団に拠る特別委員会（委員長は川崎病財団・財団理事長研究財団理事長）が、研究費を募集すると、研究者に配分する。これまでに例のない国民募金の新方式で、三年以内で原因解明を目標としている。

特別委設けて研究者に配分

川崎病は主に、四、五歳以下の乳幼児がかかる病気。一部に心臓病が残る。百人に一人くらいが心臓病を併発する。髄膜炎、ウイルス、DNAなどの原因があるが、まだはっきりしていない。五十年以降、患者は年間千人を超過しており、とくに去来秋からは爆発的な大流行。今年は、前年流行の五十四年（約六千八百人）を上回り、一万人を越すと予想されている。必要が急務である今年だけで、三千億円にのぼるとみられるが、厚生省、文部省の川崎病研究費は年間各四百万円しか出ておらず、研究者一人あたりでは年に一、三十万円にしかたっていない。

日本心臓財団（事務局・東京都千代田区外（一四））は、当然、これだけでは不足、心臓病、癌中の研究費も格

ことを承した。当然、これだけでは不足、心臓病、癌中の研究費も格



川崎病に愛の手を!

募金活動のお願い
川崎病研究財団
〒100-0001 東京都千代田区外一丁目一四番地
電話 03-5561-1111
FAX 03-5561-1112
Eメール kawasakidisease@meijiya.com



第 44 回日本川崎病学会・学術集会

深澤隆治

この度、2024年10月4～5日に東京千代田区一ツ橋の一橋講堂にて第44回日本川崎病学会・学術集会を開催させていただくことになりました。

本学会は、私の日本医科大学の先輩であります小川俊一先生が平成24年(2012年)10月に品川インターシティホールにて第32回の学会を開催しています。ちょうど東京スカイツリーが竣工した年で、抄録集の表紙にもスカイツリータワーがそびえ立っていました。また、小児での大規模臨床試験の草分けであるRAISE StudyがLancetに発表され、長年議論が分かれていました川崎病急性期治療におけるステロイド使用の科学的エビデンスが立証された年でもあります。それから12年経ち、原因の究明を切に願っておられた発見者の川崎富作先生も死去されました。未だに川崎病の原因は究明されておりませんが、急性期治療の進歩は著しく、免疫グロブリンとシクロスポリ

ン併用療法の有用性を証明した KAICA Trial などの優れた臨床研究なども続き、重篤な心合併症をきたす症例はずいぶん少なくなってきました。一方、川崎病発見から50年という経過の中で、心合併症を有する症例の多くが成人年齢に達し、成人期の早期動脈硬化・急性冠動脈症候群との関係が現実的な問題となっており、循環器内科との連携が重要になってきています。しかし、内科の冠動脈疾患とは異なる臨床像をきたすことも多く、心イベントの予防や治療法に関しても川崎病ならではのことが多々あり、まだまだ分からないことが多くエビデンスを持った予防や治療が確立できていません。川崎病は、その原因の解明も含めてまだまだ研究すべき余地が豊富な疾患です。今回の学会テーマとして、「これまで、そしてこれからの川崎病」といたしました。これまでの研究成果を活かし、これからの課題に対する解決策をじっくりと皆様と討議していきたいと思えます。本学会を更り豊かな学会とするために、皆様のご協力、ご支援をよろしく願いいたします。

(福寿会病院小児科

日本医科大学小児科非常勤講師)

Japan Kawasaki Disease Research Center

Japan Kawasaki Disease Research Center

ニュースレターNo.48をお届けいたします。
ご意見ご感想をお寄せ下さい。

事務局から

【センター日報】

- 2024年5月17日 2024年度第1回理事会開催 5:00pm～（於:当センター） Zoom 会議
2024年5月17日 2024年度公募研究選考委員会開催 5:00pm～（於:当センター） Zoom 会議
2024年6月8日 2024年度総会と研究報告会開催（於:エッサム神田） 1:00pm Zoom 会議
各年度の事業報告及び会計報告、次年度の事業計画及び予算計画は総会議事録と共に
当センターでいつでも閲覧できますので、お気軽にお立ち寄りください。
2024年6月8日 2024年度第2回理事会開催 総会后（於:エッサム神田） Zoom 会議
2025年3月7日 2024年度第3回理事会開催予定 5:00pm～（於:当センター） Zoom 会議

【特定非営利活動法人日本川崎病研究センター会員総数】2024年7月末現在

。 [正会員：66名、1法人、2任意団体]：[賛助会員：89名、1法人、0任意団体]

【学会・研究会・国際シンポジウム】

- ★ 第14回国際川崎病シンポジウム 2024年8月26～29日 於:モントリオール（カナダ）
会頭:Najib Dahdah, MD ・ Adriana Tremoulet, MD
- ★ 第44回日本川崎病学会 2024年10月4日（金）～5日（土）於:一橋記念講堂（東京）
会頭:深澤隆治先生（日本医科大学小児科）
- ★ 第49回近畿川崎病研究会 2025年3月1日（土）13:00～ 於:完全 Web 開催
運営委員長:津田悦子先生（国立循環器病研究センター小児科）
- ★ 第44回東海川崎病研究会 2025年5月31日（土）予定
代表世話人:加藤太一先生（名古屋大学小児科）
- ★ 予定：第44回関東川崎病研究会 2025年6月 日（土）於:日赤医療センター講堂
代表世話人:濱田洋通先生（千葉大学小児科）
- ★ 「川崎病の子供をもつ親の会」問い合わせ先：Tel：0467-55-5257

新会員募集にご協力ください!!!

正会員 年会費 20,000円

賛助会員 年会費 5,000円

【川崎病に関するご相談】

専用アドレスを開設しました。<kdcentersoudan@gmail.com> 担当理事が、随時返信でお答えさせていただきます。電話・Faxによるご相談はご遠慮ください。

【川崎病急性期カードお申込み】

専用アドレスを開設しました。<kdcenterkdcad@gmail.com> 主治医の先生に記入して頂き、母子手帳などと共に保存して今後にお役立てください。

特定非営利活動法人日本川崎病研究センター
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-1-1 ALES 6階
Tel:03-5256-1121 Fax:03-5256-1124

特定非営利活動法人

日本川崎病研究センター

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-1-1 ALES 6 階

● Tel:03-5256-1121 ● Fax:03-5256-1124

